

札幌で隔月発行されているシニア向けの生活情報誌「悠悠と。」が、1999年12月の創刊以来、次回の10月号で通算100号目を迎える。「役に立つ、元気になる」をモットーに、高齢者の立場に立つて健康、医療、防災、防犯などの生活情報を送り続け、読みやすい誌面が読者に定着している。

（編集委員 福田淳一）

「悠悠と。」は編集長の真鍋康利さん(66)が、勤めていた札幌市内の会社をやめ、株式会社を立ち上げて発刊した。2000年の介護保険制度スタートが目前に迫り、高齢者の生活に注目が集まっていた当時で、真壁さんにはそれまでとは畑違いの仕事だった。

AB判44ページで1冊1600円。表紙は北海道ゆかりの画家の風景画などで飾っている。目玉記事の一つは「百期百会(ひゃくごひゃくかい)」と題した創刊以来のインタビュード。聞き手はフリーアナウンサー橋本登代子(とほらみこ)さんで、2004年の故寛仁親王、09年の女優倍賞千恵子(ちえこ)さんをはじめ、各界で活躍している人々の元気の出る話を引き出している。

このほか、振り込め詐欺への対応や地震などの防災、冬道の転倒防止などシニア世代

元気と知恵をシニアに

生活情報誌「悠悠と。」
通算100号へ



バックナンバーに囲まれて通算100号への思いを語る真鍋康利さん

真鍋編集長 読者の励ましに感謝

の危機対応はたびたび特集。専門家による介護保険、医療、体操、法律、料理など暮らしに役立つ情報、さらに連載のエッセーなど多彩な内容だ。原稿執筆、写真撮影、編集を手がける真鍋さんは「文字を比較的大きくし、専門用語やカタカナをなるべく使わず、必要な情報をかみ砕いて伝える」

「悠悠と。」は個人の定期購読者のほか、牛乳宅配事業者や生損保、病院、薬局、介護サービス事業者、高齢者施設、老人クラブなどに届けられている。読者は札幌、小樽、石狩、北広島など道央圏はじめ旭川、帯広、函館、釧路と道内各地に広がっている。読者の中でも70歳から75歳ぐらいの女性に熱心なファンが多いという。

当初は季刊だったが、2年

超高齢社会の絆

10月の通算100号は、これまでの歩みについて関係者の寄稿を含めて特集する予定だ。真鍋さんは「創刊した時

目以降は隔月発行にし、はや17年がたつ。途中、何度も経営の苦しい場面に立たされた。「最初は『1年もつか』などと言われたものです。苦しい状況になるたびに『いつも楽しみにしている』といった読者の声に励まされて続けてきました。応援していただいた方々に感謝します」と真鍋さん。

は私もまだ49歳。ようやく読者層の年代に自分の年齢が追いついた感じです。今後編集の基本方針は変えないながら、自分の関心事や、女性の目線も念頭に号を重ねていきたい」と話している。

◇
連絡は発行元の株式会社エヴァナム(札幌) ☎011・522・2710、電子メール vuvu@evanam.jp。